

週末レポーター・インタビュー

() 組 なまえ _____

領域・形態・時間	話すこと [やり取り] 3人インタビュー 15～20分
ねらい	What did you do? — I went to / It was のやり取りで、友だちの週末（夏休み）を取材する。

やり方 この流れでやってみよう

- 1 You are a reporter! Ask: What did you do?
きみはレポーター。友だちに「何をした？」と取材する
- 2 Friend answers: I went to / I ate
あいては、したことを1～3文で答える（絵カードを見ながらでOK）
- 3 Ask more: It was...? / How about the food?
感想もきいてメモ（It was fun? Delicious?）
- 4 React! Wow! / Nice! / Me, too!
リアクションを返してから、次の人へ

取材メモ 3人の週末・夏休みをあつめよう（絵や日本語でメモOK）

なまえ	行った場所・したこと	感想（It was ...）

レポーターのことは：What did you do?（何をした？）／How was it?（どうだった？）／Wow! Nice! Really?（相づち）／How about you?（そっちは？と聞き返されたら答えよう）

ルール
①メモは日本語・絵でよい（聞くことに集中） ②同じ人に2回取材しない ③取材されたら、最後に How about you? で聞き返すとレポーター交代がスムーズ

☆レベルアップ！ スcoopをねらえ！ 3人の中で「いちばん意外だった思い出」を、あとで先生に1文で報告しよう（He went to と言えたら大Scoop＝6年の先取り）。

先生へ（運用のコツ・中間指導）

- ・ 5分たったら中間指導：「感想までメモできた人？」→ It wasを引き出す聞き方（How was it?）を全体で練習→2周目へ
- ・ ◎第4時は記録なしの時間。メモの充実より「やり取りが続いたか」を見る
- ・ スクープ報告（He/She went to...）は挑戦枠。言えなくても触れるだけで小5 U4・小6後半への種になる

中間指導の進行台本（第6時）

この紙は先生用（1部だけ）：主活動の20分を「1回目 → ことばの補給 → 2回目」のサンドイッチにする先生用の台本。1回目でできなかった質問を、同じ20分のうちに「できた」に変える——時間は1分も足さない。

20分のサンドイッチ 第6時の主活動20分＝思い出トーク本番①を「サンドイッチ」にする

分	やること	先生のうごき
0-7	思い出トーク1回目（班で2人発表）	発表→質問タイムの流れ。先生は「質問できずに終わった班」を見つけておく
7-9	あつめる：聞きたかったこと・こまった質問	「日本語でOK」と先に宣言する。発表側と聞く側の両方から集める（3～4個で十分）
9-12	英語にする：下の補給表から黒板へ	近いものを書き写し、全員で2回ずつ声に出す（先生がその場で英語を作らなくてよい）
12-13	自分の質問にもどす	2回目にする質問を1つ決めて、となりに1回言えたら準備完了
13-20	思い出トーク2回目（残りの2人）	「補給した質問を1つ使えたらレポーター級」。2回目は質問が必ず増える

ことばの補給表 「言いたかった」を、ここから黒板に書き写すだけ

言いたかったこと	こう言える	ひとこと
いいね、楽しそう！	Nice! / Fun!	あいづちがトークの燃料
どこ？と聞きたい	Where?	1語で質問になる
何を食べたの？	What did you eat?	What did you do? の do を替えるだけ
わたしも同じことした！	Me, too!	あいづちの王様
楽しかった？とたしかめたい	It was fun?	語尾を上げてくり返せば質問になる
おいしそう！	Yummy!	食べものの思い出にはこれ
ほかには何かした？	Anything else?	5年レストランのことば——取材をうながす
もう一回言って	One more time, please.	聞き返しは道具

表にないことばが出たら
地名はそのままでもいい——Nagano で立派な英語。どこにも行かなかった週末は I stayed home. が堂々の1文（思い出の豪華さは比べない）。あとは「日本語＋ジェスチャーでOK」と返す。

先生へ（この20分の勘どころ）
・この20分は主活動そのもの——時間は足さない。第7時の本番②も同じ進行（2枚目の「5分たったら」は第4時の話）
・stayed home の子の文を最初に取り上げる——「地味な週末」が言いやすい空気は先生が作る（この単元の設計思想）
・補給は質問側に寄せた——went / ate / enjoyed の文は組み立て済み。会話になるかは Where? と What did you eat? で決まる
・行き先の豪華さには触れない（所見の鉄則と同じ）。「英語で聞けた・答えられた」だけを喜ぶ